

は、高齢者の方々に日々充実をしていただく、元気で過ごしていただくというきっかけ作りになっていただければと願うところです。

定年退職された高齢者の方々の希望に応じた就業の機会を確保すること、組織的に提供することによって、その能力を生かした就業、その他、多様な社会参加活動を援助して、高齢者の生きがいの充実と社会福祉の増進を図るとともに、活力ある地域づくりに寄与していただくことを期待しています。

平成18年度の会員数は414人、その内訳は成東地区161人、山武地区93人、松尾地区122人、蓮沼地区38人です。平成24年度は、291人、内訳は成東地区118人、山武地区84人、松尾地区69人、蓮沼地区20人という状況にあり、地域バランスを配慮して、運営にあたっては、いろいろなことをお聞きしています。

●震災復興について

Q 昨年3月11日の津波、また、震災は想定外の災害であった。あれから1年が過ぎ大分落着きを取り戻してきたが、これからの問題は、まさに復興であり、風評被害、津波被害が、思いのほか、見えない被害であり、地域経済、特に観光業にとって大変厳しい経営状況だ。

A 執行部の方々が、現状をどれほど認識されているのか、しっかりと調査した中で、これから始まる復興を進めていただければ、市の将来が、より明るく良いものとなるのではないかと、また期待もできるのではないかと、いう思いを込めて、復興計画の基本的な考え方について、どう考えているのか。

A 市長 今回の大きな災害で、私たちが、一般市民としてもそうですが、実際に被害を受けた議員は殊のほかだと思いますが、私どももいたし

ましても、今回の大きな震災から学んだことは大変多いと思っております。これから将来に向けての中で、何をしっかりと受け止めなければいけないかということだと思います。市といたしましては、市民が一丸となつて、震災からの復興を早期に成し遂げたいと思っておりますし、特に海岸地域の皆様方にとりましても、『誰もがしあわせを実感できる独立都市さんむ』を共感していただかなければなりませんので、新しい時代の地域社会の創造というスローガンを掲げて、震災復興に向けてまい進したいと考えています。

今年度、消防防災係を課に昇格して、復旧、復興計画を策定しています。これを総合計画の後期基本計画と合わせて、整合を図りながら、この地域の新しい時代を創造していくという思いを込めながら、しっかりと復興という言葉を総合計画の中の一つの柱として、進めて

参りたいと思っております。東北地方は、この地域とは比べものにならない甚大な被害だと思っております。しかし、この山武市も被災地だ。東北のほうに行かれる、その1%でもいいので、この地元にも目を向けて、足を運んで、話を聞いて、現状をしっかりとつかんでもらいたい。

Q 東北地方は、この地域とは比べものにならない甚大な被害だと思っております。しかし、この山武市も被災地だ。東北のほうに行かれる、その1%でもいいので、この地元にも目を向けて、足を運んで、話を聞いて、現状をしっかりとつかんでもらいたい。

A 市長 今回の大きな災害で、私たちが、一般市民としてもそうですが、実際に被害を受けた議員は殊のほかだと思いますが、私どももいたし

中でも、規模は違うが、被害があり、外から見ていたのではなく、中に入つて、話を聞かなければ、実際のところはわからない。その上で、これからの復興を総合計画の中に織り込んでいく。大事なところではないのか。

私は、ある意味、これからの5年間は、山武市にとって、今までにないチャンス到来ではないかと思う。受けた災害の傷をバネにして、地域を一つにして、それを目標として、新しい時代につながる、そういうまちづくり、復興をぜひみんなで一丸となつて進めていただきたいかがが。

A 市長 議員がお気持場を述べられて、私どもの配慮が行き届いていないということを訴えられ、

大変しっかりと受けとめなければいけないと感じました。日々努力されていることをできるだけ御支援できるように、行政としても頑張っていきたいと感じました。



復旧工事の始まった木戸川の堤防

一般質問の内容は、各議員から提出された原稿をそのまま掲載しました。

※詳しくは、図書館又はインターネットで会議録が検索・閲覧できます。(発行は後日)